

CATCH UP!

西井葉子

YOKO NISHII★ピアノ

ヴァンタージ・ニューヨーク・スタイル
ンウェイ「CD368」でクロアチアの
秘曲を！CDもリリース

クロアチアで研鑽を積んだピアノリストの西井葉子が、3月にヴァンタージ・ニューヨーク・スタイルンウェイ「CD368」でリサイタルを開く。

「『CD368』の音はとても奥が深く、私の人生最大の出逢いの一つと思えるほど魅力的なピアノです。タッチの感覚、出てくる音の多様性、可能性、すべてにおいて現代のピアノとはまるで違うのです。高音部のキラキラ輝く音、低音部の轟音などは、ホロヴィッツが愛用した「CD75」などと同じ性格、方向性を備えています。中音域の音質に違いや個性を感じます。私は、『CD368』の中音域における独特の何とも言えない木質の温もりのある音に惹かれています」

その音は、リリースされたばかりのCDにクレジットされているペヤチエヴィッチの作品に相応しいのだという。「ヨシボヴィッチの《ガラス玉演戯》は、留学時代にどっぴりハマったヘルマン・ヘッセの同名の小説にちなんだ作品だとある日気づき、『これは演奏しなければ！』と思ったのです。彼はヘッセのこの作品を見事に音楽で表現しています。ガラス玉の透明感、色彩感、そして特に空間、宇宙的な広が



[Information]
『ドラ・ペヤチエヴィッチ:ピアノ作品全集』CD発売記念コンサート〈会場〉3月28日15時〈会場〉タカギクラヴィア松濤サロン(※チケットは完売)。CD『ドラ・ペヤチエヴィッチピアノ作品全集』[HERB023/024](2枚組)が2月20日に発売されたばかり(ハーブクラシックスより)

りを感じる作品です」

ペヤチエヴィッチの作品については、「彼女は19世紀後半から20世紀初めにかけて活躍した作曲家で、その作品は全体に詩的で抒情的で色彩豊か。後期ロマン派の色が濃い。クロアチアの作曲家と言っても、オーストリアハンガリー帝国時代における貴族の家系に生まれ、ドレスデンやミュンヘン、ウィーンなどドイツ語文化圏との関わりや影響が大きく、北欧の影響も見られその中身は複雑です」と話す。

ここ10年ほどの間、クロアチアの音楽界では、クロアチア人作曲家による作品の楽譜の出版数、その普及には目を見張るものがあるのだという。

「初めて渡航した1998年頃には、今回リサイタルで弾くペヤチエヴィッチはほぼ完全に埋もれていて、当時、私が最初に出逢ったクロアチアの作曲家はパバンドプロ。ペヤチエヴィッチを知ったのはその1〜2年後のことです。まだまだ発掘し甲斐のある静かな環境の下で、ペヤチエヴィッチの《ばら》やヨシボヴィッチの《ガラス玉演戯》、クンツの作品に出逢い、徐々にクロアチア人の作曲家に興味を湧いてきましたが、当時はそれらのオリジナル楽譜はすぐには手に入らなかったし、出版されているものも限られていました。ペヤチエヴィッチにしても、『ピアノ・ソナタ』変ロ短調Op36が出版されたのは2002年、小品全48曲や『ピアノ・ソナタ』変イ長調Op57の楽譜が出版されたのは2005年のことです」

ONTOMO MOOK

「音楽の友」編 **名作オペラに酔う!**

「音楽の友」本誌で執筆されている音楽評論家の方々が、古今東西の名作オペラ50作品をわかりやすく解説。近年、実際に接したステージの印象や演出、舞台美術などにも触れて頂きながら、現代における各作品の上演のトレンドがわかるような構成になっています。併せて、「音楽の友」編ならではのオペラ指揮者や歌手——リッカルド・ムーティ、アントニオ・パッパーノ、バルバラ・フリットリ、他——などのインタビュー記事も掲載！巻末には、今春以降の世界各地のオペラ上演情報も収録。春からのプランニングにお役立て下さい。オペラ・ファン必携の1冊です！(A4変型/192頁 1800円+税)



好評発売中!

〈主な項目〉

- *世界の名プロダクション——話題のステージから
- *名作オペラ50選
- *オペラ名演奏家インタビュー:リッカルド・ムーティ/バルバラ・フリットリ/アントニオ・パッパーノ/ロバート・デーイン・スミス/上岡敏之/沼尻竜典/他
- *オペラ演出「いま・むかし」
- *国内外 オペラ公演スケジュール一覧